

活動報告

第42回保険医まつり

開催された2日間のうち、特に20日（日）はブースへの来場者が途切れることなく盛況でした。この企画は、イベントのホームページで広報させていただいていたのですが、当日は「ソーラーカー工作があつたんや。定員いっぱいやて。残念やなあ」という声を多くの方からお聞きしました。

実際参加してくれたみなさんは、ソーラーカーが走った瞬間、嬉しそうに笑顔を見せる子どもたち。それを見ていた保護者の方も手をたたいて喜んだり、「すごいね！よくできたね！」と声をかけたりする様子に、私たちもうれしくなりました。保護者の方からは、リサイクル材を使用して準備した材料を手に「部品一つひとつが手作りで大変ですね」や、子どもが試行錯誤しながら動きを確認している様子を見ながら、「どこがうまくできていって、どこを直さないといけないのか、自分で考えながら工夫していくことが大事ですよね」などの声を聞くことができ、それは、私たちが進めているコンセプトを理解していただいたもので、とてもうれしかったです。今後もこのようなイベント出店を通じて、自然エネルギーの良さやすごさを伝えていきたいと思います。



いのこの里市民共同発電所点灯式

一般社団法人市民共同発電サンサンすいた（以後、サンサンすいた）と社会福祉法人こばと会が、吹田市の特別養護老人ホーム「いのこの里」に太陽光発電設備を設置したことを記念し、4月12日に点灯式が開催されました。

当日は、天候に恵まれ、参加者が約200名という盛大な式典でした。オープニングでは、いのこの里職員とサンサンすいた会員による「ひまわりサン体操」でぎやかに始まりました。

主催の社会福祉法人こばと会の正森理事長の挨拶では「私たちの事業所は命を守ることを柱に運営し



【点灯式での記念写真】

ています。そのためには地球を守ることを抜きには考えられません。温暖化の下で災害が頻発し激甚化していますが、ライフラインを守り災害時の電力確保を考えた時発電所が援助になると信じています。その意味から屋上に太陽光パネルを設置することにしたのです」と述べられました。続いて、共同主催のサンサンすいたの井上代表理事からは「この日を迎えることができたのは多くの皆さんとの出会いと協力があったから。温暖化問題について何かしなければ。でもどうしたらいいんだろうと考えてきましたが、市民がつながりあって市民共同発電所を作ることが希望だと準備会を立ち上げました。それから2年さまざまな方との出会いから学び、諦めなければ実現するとできることを学びました」など、施設や地域の方々とのつながりができた喜びが語られました。

設置・準備に協力させていただいた当会の和田代表も参加し、「私たちはCOP3（京都議定書）の直前に湖南市に市民共同発電所を設置しました。そこからやっと広がり始めたが、世界に比べると日本はまだまだ遅れている。近年、石炭輸出国のオーストラリアが、石炭から再エネ中心に大きく転換しました。温暖化で一番困るのは次の世代です。このような取り組みを市民・地域主体でぜひ広げていきましょう」と挨拶をさせていただきました。

その後、入所者による点灯やぜんざい・焼餅の振る舞い、発電所の見学会など盛りだくさんの内容でした。この取り組みをきっかけにサンサンすいたには、2~3カ所の市民共同発電設置の相談がきていくそうで、今後の広がりに期待されています

(PAREスタッフ 島田和幸)